

V336a 超小型衛星用スタートラッカの開発と軌道上実証

間宮英生、小澤俊貴、谷津陽一、河合誠之（東工大理学院）、菊谷侑平、佐々木謙一、新谷勇介、小泉翔、増田雄斗、岩崎陽平、渡邊圭、松永三郎（東工大工学院）、下川辺隆史（東大情報基盤センター）、工藤裕（天の技株）

地上への検出速報を実現するには機上でのデータ解析、特に天球座標と取得画像の対応付けが必須である。この技術は衛星の姿勢技術に用いるスタートラッカとほとんど同じ技術であることから、近年世界的な盛り上がりを見せる超小型衛星の産業利用を目指して、超小型スタートラッカのプロトタイプ開発と軌道上実証を行う。

本年度4月に搭載品の引き渡しを終えて衛星組み込みの上でシステム試験を行ってきた。フライトは1月下旬の予定であり、打上げが順調であれば、民生CMOS画像センサの軌道上較正データ等の情報を取得できる。本講演ではこれらフライトオペレーションの状況報告と可能であれば初期観測成果について述べる。